

The Selfish Gene

リチャード・ドーキンスの『利己の遺伝子』は、進化生物学の革命的な著作である。この本は、遺伝子の視点から生物の行動を説明しようとする試みである。

ドーキンスは、遺伝子が自己複製を目的として行動していることを示す。生物は、遺伝子の生存と繁殖のための手段として存在しているという考え方を提唱する。

この本は、利己の遺伝子の概念を説明し、生物の行動を遺伝子の視点から理解するための重要なツールを提供する。読者は、生物の行動の背後にある遺伝子の戦略を学ぶことができる。

ドーキンスは、95%の遺伝子が自己複製を目的として行動していることを示す。5%の遺伝子は、他の遺伝子の生存と繁殖のために行動しているという考え方を提唱する。

この本は、利己の遺伝子の概念を説明し、生物の行動を遺伝子の視点から理解するための重要なツールを提供する。読者は、生物の行動の背後にある遺伝子の戦略を学ぶことができる。

ドーキンスは、利己の遺伝子の概念を説明し、生物の行動を遺伝子の視点から理解するための重要なツールを提供する。読者は、生物の行動の背後にある遺伝子の戦略を学ぶことができる。

ドーキンスは、Chicagoの大学で教授を務めた。この本は、彼の研究の成果をまとめたものである。読者は、彼の研究の成果を学ぶことができる。

この本は、利己の遺伝子の概念を説明し、生物の行動を遺伝子の視点から理解するための重要なツールを提供する。読者は、生物の行動の背後にある遺伝子の戦略を学ぶことができる。

この本は、利己の遺伝子の概念を説明し、生物の行動を遺伝子の視点から理解するための重要なツールを提供する。